

「ヘタウマ英語」の仕上げ

当初、3回で終わるはずの「ヘタウマ英語」の連載を、4回としていただきました。そして、いよいよこれが最終回。これまで「ヘタウマ英語」では、以下の3か条に着目し、英語力は今のままに、仕事でより際立つ存在となる方法は必ずあることとお話してきました。

その1: 日本語で説明できないことは、英語で説明できない

その2: 「対話の流れ」を想定した準備をする

その3: 丁寧すぎる英語は、思い切って捨てる

もうお気づきだと思いますが、ヘタウマ英語の神髄は、英語を介した「人間関係の構築」にあるのです。ビジネスにおける英語に対する自信は、良好な関係性の上でしか成り立ちません。こうした関係性を構築できるようになったとき、はじめて余裕が生まれ、笑顔が生まれます。そしてその笑顔が出せる人柄こそが、ヘタウマ英語の最終仕上げです。

「人柄」に勝るものはない

本連載のまとめとして、第1回で登場したニコリ社の元社長であるマッキーさんのエピソードをもう1つご紹介します。あるとき、ニコリ社はアメリカの出版社との大型契約の交渉の場で、相手の担当者に、「ニコリの数独パズルは、ほかと何が違うのか？」と聞かれました。まさに、会社の核心に迫る質問です。しかし問題は、相手の担当者の態度が威圧的で、ニコリ側の担当者も感情的になってしまったことでした。室内はなんとも陰鬱な雰囲気。

しかし、この状況で突然、カタコトの英語しか話せないマッキーさんが立ち上がったのです。マッキーさんは「オッケー、オッケー！」と言って、紙と鉛筆を取り出し、「This is computer.」と言って、数独パズルの例を紙に書き、「オッケー？」と。次に、もう1つ数独パズルの例を書き「This is Nikoli.」と言って、相手をのぞき込んで「オッケー？」と。すると、相手もついつい「Okay, okay.」とうなずきます。マッキーさんは、たった1枚の紙と鉛筆、カタコトの英語で、ニコリの数独は人間が作っていて、コンピュータにはできない仕掛けがあることを、その威圧的だった

担当者にわからせてしまったのです。それだけではありません。この話が終わったとき、「オッケー？イエス、オッケー！」と笑うマッキーさんを囲んでいた人々に、笑顔があったのです。マッキーさんのヘタウマ英語は、見事に人をつないだのです。私は、感動に近い感覚を覚えました。これが、世界と渡り合うことなのだ、と。

共に作り上げる対話

本連載では、何度もカラオケを例に、ヘタウマ英語の意味を解説しました。練習してきたバラードを一人で黙々と歌うような英語の準備や発表では、「英語、お上手ですね」と言われることはあっても、人とつながることはできません。一緒に歌え、場が盛り上がり、お開きの頃には和気あいあいとみんなが笑っているカラオケのような状況を、カタコトの英語の対話でも目指すのです。むしろ、場を盛り上げるのは下手な方がいいくらいです。

ほんの小さなことで変化は起こせます。「Do you know what I mean?」や「So far, so good?」と相互理解を確認したり、「What would you say if...?」のように、相手と共に作り上げる対話をはじめましょう。遠慮はいりません。相手はネイティブで、英語のプロなわけですから。

もし最近、英語に自信がなかったら、ご自身を振り返ってみましょう。一方的な英語の発表にはなっていないませんか？ 丁寧にすぎているいませんか？ そこに笑顔はありますか？

一人でも多くの日本人が、ヘタウマ英語のマスターとなれることを心より願い、本連載を締めくくりたいと思います。

内藤博久 (準会員)

100年の歴史を有する米国の法律事務所 Moses & Singer LLPにて労働法、企業法務、知的財産権などを専門に扱うニューヨーク州・テキサス州弁護士。幅広いネットワークで米国の大手法律事務所と提携し、日本企業の米国進出を多角的に支援。日本人経営者を対象としたリーガルセンスを磨くセミナーを実施し、YouTubeの配信なども行っている。



・Email: [hnaito@mosessinger.com](mailto:hnaito@mosessinger.com) ・YouTubeチャンネル ・久ラジ  
 ・US LEGAL AID FOR LEADERS ・ヘタウマ英語: [第1回](#)・[第2回](#)・[第3回](#) ・[個人ブログ](#)

他団体便り

2022 TEXAS STATE JAPANESE LANGUAGE SPEECH CONTEST

テキサス州 日本語スピーチコンテスト

presented by: JAPAN AMERICAN SOCIETY OF TEXAS, CAPLAN FOUNDATION

VIRTUAL

第32回テキサス州日本語スピーチコンテストが3月12日土曜日、在ヒューストン日本国総領事館及びヒューストン日米協会の共催により開催されました。昨年に続くバーチャルコンテストで、各地区大会上位入賞者総数31名に加えオープン部門参加者5名を含めた36名、さらにボランティアの方々、各日本人団体を代表する審査員の方々(商工会からは根本生活・情報委員長が参加)、ゲストを含む総数57名がズーム上で一堂に参集しました。今年の大会は春休みが始まった翌日ということもあり、旅行先から参加した出場者や州外の滞在先から参加した審査員などもあり、バーチャルが私たちの生活に根付いたことを認識させる大会となりました。

コンテストは冒頭の村林弘文総領事からのビデオ録画による応援メッセージで始まり、インターネット動画ですべてのプログラムがライブ配信されました。参加者の家族や教師、多くの友人もネット上で参加応援することができ、その観衆者数は370名におよびました。発表は、第一部門の高校スピーチ全米オーロラ大会出場者選考部門から始まり、課題詩部門、俳句部門、大学部門、そしてオープン部門と続きました。部門ごとにコンピュータ上での画面の切り替えがりましたが、最近では、コンピュータ作動をスムーズにこなす人々も多くITサポートもあり問題なく進行できました。ゲストの一人であるカナダ人落語家桂サンシャインさんが公演先のロンドンからオンラインで応援パフォーマンスを披露し笑いを届けてくれました。またオープン部門は、バーチャルにより遠隔地からも参加しやすくなったことで4年ぶりに復活しました。

スピーチの内容は、パンデミックがもたらした学校生活から学び得たこと、パンデミック後の自分のあり方について、気候変動が社会生活の仕組みに及ぼす影響について、日本語の方言についての興味から得た知識などについて等でした。熱意のこもったスピーチに、審査員及び参加者一同は熱心に耳を傾けていました。

入賞者発表には、在ヒューストン日本国総領事館、ヒューストン日本商工会、グレーターヒューストン日本人会、ヒューストン日米協会、テキサス州日本語教師会、紀伊國屋書店の各支援団体代表の方々のご出席のもと、参加者はズーム画面で、家族や教師はライブ動画で臨みました。全部門参加者には参加証書、



▲大会入賞者

各部門上位入賞者には賞状と各団体が支援する部門の賞金や副賞が授与されました。今年のバーチャルコンテストも、各支援団体からの多大なるご支援とご協力により実現し、成功裏に終了できました。生徒学生が、日本語スピーチコンテストを通して日本語学習の成果を発表する機会と、日米文化交流の絆を深める機会に恵まれたことは、皆様のお蔭と改めて感謝に堪えません。在ヒューストン各団体、ボランティアの皆様、審査員をお引き受け下さった各団体代表者の方々のご協力とご支援に深く感謝申し上げます。今後とも引き続き宜しくお願い申し上げます。

以下入賞者の方々には、今後も継続して日本語と日本文化を学習し、日米両国の架け橋となり日米文化の交流と相互理解に尽力されるよう心より祈念いたします。また、入賞された生徒学生のご家族、日本語教育に携わる教師の方々の日々の努力に感謝すると共に、その努力の成果に心からお喜び申し上げます。おめでとうございます。

(佐藤裕子(ライス大学) ヒューストン日米協会スピーチコンテスト実行委員会)

各部門入賞者 氏名(在学学校名・代表地区名) : 課題詩部門1位 Joshua ZUNIGA (Johnson H.S. San Antonio) 2位 Kevin LUO (William P. Clements H.S. Houston) 3位 Jerry ZHANG (William P. Clements H.S. Houston)、俳句部門1位 Narah MONREAL (Churchill H.S. San Antonio) 2位 Rebecca SCARAMUZZI (Liberal Arts and Sciences Academy H.S. Austin) 3位 Ghania EWELIKE (Richardson H.S. Dallas)、高校オーロラ部門1位 Adanuri ANAYIAM (L.V. Berkner H.S. Dallas) 2位 Elianna MOORE (Johnson H.S. San Antonio)、3位 Camille KOUTRAS (Ronald Reagan H.S. San Antonio)、大学部門 1位 Ella BARTON (University of Texas at Austin)、2位 James DALTON (University of Texas at Austin) 3位 Jeilene FABI (University of Texas at San Antonio)、オープン部門1位 Alisa NORO, College Park H.S. Houston  
 特別賞・副賞 : ヒューストン日本商工会(JBA) 記念品 : 俳句部門上位入賞者全員、テキサス州日本語教師会(JTAT) 記念品 : 課題詩部門上位入賞者全員、ヒューストン日本人会(JAGH) 奨学金合計1000ドル : 高校オーロラ部門 1位 Adanuri ANAYIAM (L.V. Berkner H.S. Dallas) 2位 Elianna MOORE (Johnson H.S. San Antonio) 3位 Camille KOUTRAS (Ronald Reagan H.S. San Antonio)、ヒューストン日米協会(JASH) 奨学金合計1200ドル : 大学部門 1位 Ella BARTON (University of Texas at Austin) 2位 James DALTON (University of Texas at Austin) 3位 Jeilene FABI (University of Texas at San Antonio) 紀伊國屋賞記念品 : オープン部門1位 Alisa NORO, College Park H.S. Houston JTAT INSPIRATION AWARD : Shaina ALBERT, Richardson H.S. Dallas

大会結果発表 大会動画